

第42回 滋賀県政世論調査(森林関係)の集計結果について

調査実施:平成21年6月、 規正標本数(総数):3,509人
 全体設問数:32問、 琵琶湖環境部設問:「5.琵琶湖の総合保全および森林づくり」問26～問32

問29 森林・林業行政への要望や必要な取り組み(回答数4)

森林整備の担い手の育成・確保	54.7
間伐などの森林整備	53.2
子どもたちが森林での体験学習などを行う 森林環境教育の推進	40.4
森林の大切さや森林整備の重要性などについて の普及啓発	40.0
森林面積の減少を伴う開発の抑制	37.0
森林資源の循環利用を図るための県産木材 の利用促進	30.6
森林ボランティア活動への支援	22.7
土砂崩れなどの災害を防ぐ治山ダムなどの 整備	19.2
その他	1.9
不明・無回答	7.0

問32 琵琶湖森林づくり県民税の望ましい使い道(回答数4)

県民の利活用を図るため、荒廃している里 山林の手入れ	40.0
針葉樹と広葉樹が入り混じった生態系豊かな 森林へ導くための環境林整備や、森林吸収 源対策としての手入れ不足の人工林に 対する間伐の実施	38.6
森林づくりの担い手としての森林所有者、 後継者、森林組合従事者の育成・確保	26.2
次代の森林を支える青少年を育成するための 森林環境学習	22.8
NPOやボランティアなど県民による森林づ くり活動への支援や、県民が森林づくり施策 に参画できる仕組みづくりなど、県民協働に よる森林づくり	22.8
再生可能な地域資源であり、二酸化炭素の 固定による地球温暖化防止のための県産 材の利用拡大や搬出路の整備	22.1
バイオマス利用をはじめ技術開発などによ る森林資源の新しい活用	21.7
森林への被害が著しい野生鳥獣(シカ、カ ワウなど)に対して、森林を守るための施策	21.1
水源かん養機能を高めるため、伐採年齢を 70～80年に延ばす長伐期林への誘導	19.5
木の温もりや良さを体感する機会を県民の 皆さんに提供したり、PRする活動	17.7
滋賀県人工林面積の約1/3を占める県、 市町、造林公社等が管理している公的な森 林に対する地球温暖化防止や水源かん養 等公益的機能の維持増進を図るための施	15.8
森林の価値や森林づくりの意義などを説明 し、森林づくりへの関心や参加を促す活動	12.2
その他	1.5
不明・無回答	11.8

設問項目の中では、里山整備、環境林整備
および森林吸収源対策としての間伐の実施への
県民税充当が、もっとも高い結果となった。

問29とも共通する結果として、森林づくりの担
い手・後継者等の育成・確保が、いずれも高い
ポイントとなった。

前回調査(H18.6、第39回調査)問19の結果
との比較については、調査方法・項目内容が異
なるため簡単な比較はできませんが、全体の相
対的な傾向としては、基本計画の4つの施策の
柱における、森林資源の循環利用に対する関
心が、より高まる傾向にある以外は、ほぼ同じ状
況と考えられる。